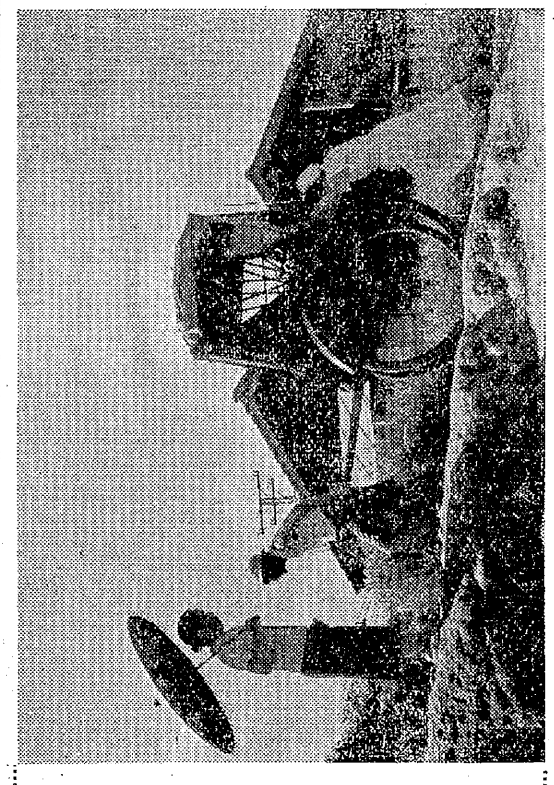
昭和27年9月25日
第三種郵便物認可

みいけ

入選一席「協力」

三川　長南　久太



入選二席「手」

四山　久保田一秋

ふと同僚をこの手を眺めた
なんと高尚な力の
ぶかっこうな手
この手が彼の人生をうきうきと
なるのだ

ぼつこと振り
割れている爪
無分別の人間の
繁殖者の土壌のように
ふかっこうな手
俺はこのぶかっこうな手を
今しも戒めつつ
この手に俺の一生を託している

雛の手よりも
これからのすべての信頼を
この手に託し
この手で働き
この手で生きていくのだ
そして何ものをも
この

【佳作一】

手

四山　久保田一秋

ふと同僚をこの手を眺めた
なんと高尚な力の
ぶかっこうな手
この手が彼の人生をうきうきと
なるのだ

ぼつこと振り
割れている爪
無分別の人間の
繁殖者の土壌のように
ふかっこうな手
俺はこのぶかっこうな手を
今しも戒めつつ
この手に俺の一生を託している

雛の手よりも
これからのすべての信頼を
この手に託し
この手で働き
この手で生きていくのだ
そして何ものをも

【佳作二】

発破

製作　松田義光

ドリルを持った男が
ぶっぱっぱっぱ
鑿が鳴きを
かけしゃるに
こうかぶれている合間
相槌機が相手をかしながら
面白そうに
とっちゃっている

使用者——
不安と期待と
ふっつりと
男たちの
影は　岩上に
踊りつづけた

とる終——
事故が
大鑿は　血の色した
とれた
隅やけした男は　鑿を
やがて
悲鳴と
ぶっぱっぱっぱ
鑿の
岩は　赤銅色のように
思った
岩に
とっちゃっ

【佳作三】

吸収

四山　馬場久元

鑿
ぶっぱっぱっぱ
ぶっぱっぱっぱ
ぶっぱっぱっぱ